



烏山城跡(からすやまじょうあと)が国指定史跡に答申されました

文化審議会文化財分科会の審議・議決を経て、文部科学大臣に答申されました。官報告示によって正式決定された後、史跡の保存活用計画を策定します。詳しくは、調査整備指導委員会を立ち上げ、その中で検討していく予定です。

(告示の時期は、はっきりしていませんが、例年ですと3月頃と思われます)

史跡となる烏山城跡の保存と活用を進めていくことで、烏山城跡が地域のシンボル的存在として、益々多くの方々に愛着を持っていただけるような整備を進めて行くことで、地域の活性化につなげていきたいと考えています。

正式決定した後、市HPのデジタル博物館に、「史跡烏山城跡登城証明書」を掲載する予定です。

烏山城跡は、「ひとつの城で2度おいしい城跡」です。

自然の地形を上手く利用した難攻不落の城として、長い期間(400年間以上)改修・修繕を経ながら、継続して使われ、現在の保存状態も良好な城跡です。

そのため、烏山城跡に来ていただければ、中世・戦国時代の城跡部分と近世・江戸時代の城跡部分の両方を見ることができ、その変遷を探ることができます。貴重な城跡です。

築城の時期については、応永25(1418)年に那須氏の一族、沢村五郎資重によって築城されたという伝承が残っています。正確な時期については詳細不明ですが、これまでの調査から、15世紀後半には烏山城が存在していたことがわかっています。

戦国時代の史料(古文書)からは、那須氏の本拠であったことや、周辺からの度重なる侵攻をすべて撃退するなど、堅固さを誇ったことでも知られています。

天正18(1590)年の那須氏の改易以降、享保10(1725)年に大久保氏が移封されるまでの間、目まぐるしく城主の交代がされますが、その間に記された史料や絵図から、城の構造の変遷がうかがわれ、そのことはこれまで実施した発掘調査からも裏付けられています。

指定地は、埋蔵文化財包蔵地(遺跡)に登録されていますが、これまで市指定文化財、県指定文化財に指定されておらず、未指定の文化財でした。

添付資料:烏山城パンフレット(城跡散策用A2版)と(市内観光用A4版)

写真別紙(A4版1枚)5種類

「史跡烏山城跡登城証明書」(案)

この件に対する問い合わせ先

教育委員会事務局 生涯学習課 文化財グループ

電話番号:0287-88-6223

メールアドレス:shohgaigakushu@city.nasukarasuyama.lg.jp

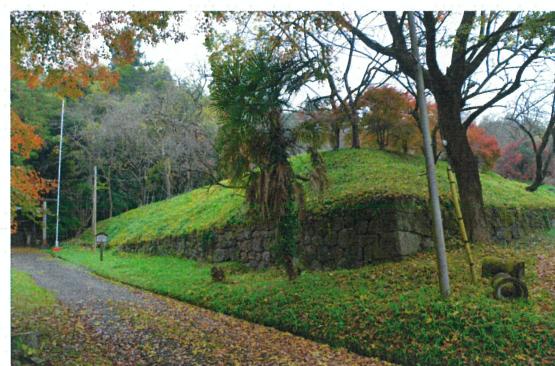
鳥山城跡（那須烏山市提供）



1 俯瞰写真（南より）



2 吹貫門脇石垣（南東より）



3 三の丸石垣（南東より）



4 西城埋め戻されていた区画溝（北西より）



5 古本丸出土 かわらけ溜り（S X-1）出土品

栃木県那須烏山市

国指定史跡

鳥山城跡登城証明書

貴殿

貴殿が、難攻不落の名城

鳥山城跡を攻め、必ずしも事に

登城したことを見付ける

令和年月日

那須烏山市教育委員会

鳥山城

鳥山城跡

鳥山城の沿革

応永24年(1417)※、那須氏一族の沢村五郎資重によって築城されたと言われています。それ以後、天正18年(1590)に当主那須資晴が、小田原遼参を理由に豊臣秀吉によって改易されるまで、那須氏の居城となりました。

戦国末～江戸中期においては、織田氏、成田氏、松下氏、堀氏、板倉氏、那須氏、永井氏、稻垣氏と頻繁に城主の交代が行われ、万治2年(1659)、時の城主であった堀親昌によって、城の東山麓に新たな居館(三の丸)が築かれ、以後の藩政機能はこちらに移ることになりました。

享保10年(1725)になると、譜代大名の大久保常春が江州(現:滋賀県)より移封され、その後八代、約140年にわたって大久保氏が城主になり、城は明治を迎えて廃城となりました。

※応永25年(1418)の説もあり、これは応永24年2月築城開始、翌25年正月に完成、入城という古記録の記載によるものです。

築城の由来に関しては、これらの説を含め諸説ありますが、考古学的にはまだ詳細不明であり、正確な築城時期は不明です。